遊学舎武雄こども園　園だより
2026 年（令和８年）　２月号

「１７８のこころ」

先日４歳児の保育参加が行われました。子どもたちと一緒に「保育参加、何したい？」をテーマに話し合いをし、その中で出てきたクッキー作り、サイエンス、普段の室内での遊びを楽しみました。

「ママたちと遊べる！！」と子どもたちはとても嬉しそうで、また、いつものように遊ぶ子どもたちの様子を見守る保護者の方の笑顔もとても印象的でした。そして佐藤先生から『あなたのなまえを』という絵本も読んでいただき、我が子をギューッと抱きしめ、涙を流されている保護者の方もおられ、とても大切で、大事なお子様をお預かりしているのだなと改めて感じ、身の引き締まる思いでした。たくさんの笑顔が広がる愛溢れる瞬間となりました。

今年度も残り一か月半。４歳児の担任をさせていただき、あっという間に一年が過ぎようとしています。どんなことが好きなんだろう、興味があるんだろうとひとり一人を知るところから始まり、子どもたちの成長を傍で見守ることができ、とても幸せな一年でした。次はいよいよ年長さんですね。ここからまた一段と大きく成長していく子どもたちの姿がとても楽しみです！

月に1度のえほんタイム。園庭やキッズホールでの開催で、子どもたちは随時そこに集まり同じ時間を共有します。しかしそこには「絵本を見ないといけない」という強制は少しもありません。絵本を介し、それぞれの参加の仕方で過ごすのです。絵本の世界を純粋に楽しむ子、自分の選んだ絵本を読んでもらうことを喜ぶ子、たくさんの絵本のことを知っては専門家への憧れを抱く子、人対人の出会いをただただ楽しむ子…。一つの活動の中に、その子なりの楽しみ方や感じ方がある、それでいいのだと思います。そうして、その心地良さや楽しさの共に、新たな世界の広がりや「好き！」につながる何かがあれば…　そんな想いでこれからも様々な出会いを用意していきます。

ある朝、さくら組さんのある女の子が描いた絵本をお家の方に見せて頂きました。３歳児さんで入園してこられた、その女の子。ゆっくりと、しかししっかりとした歩みで、自分の安心できる場所を確かめながら、園での日々を重ねてきました。そして今年、年長さんになり、たくさんの絵を描き、生き生きと園生活を送る姿が印象的で、卒園を間近に迎えた今、こんな絵本を作られたのです。

ドキドキする気持ち。ワクワクする気持ち。そして、そんな揺らぎを全て受け止めてくれる、あの温度に出会った、ほっとする気持ち。そんな心の動きがとても素直に、そして瑞々しく描かれています。

人間とは自然。つまり、みんなもともと持っている種が違っていて、同じタイミングにその種が芽吹くことはない。それは進化と繁栄のために、故意に違うタイミングで芽吹くように生まれてきたから。園の子どもたちが生まれたその日から大人になるまでずっと、自分だけの芽吹きをゆったりと待ってくれる環境と、急かされず、比べられず、「それが素敵。そのままのあなたが素敵。」と言ってくれる人の存在に、１人でも多く出逢ってほしいと心から願います。

この絵本の題名は「せんせいのて」。この女の子にとって、先生の手は、彼女の種を包む土壌なのかもしれません。安心できる環境と安心できる人に守られていること。それはつまり、安心して失敗できること、安心して挑戦できること。安心の上に輝く力は、想像をはるかに超える光を帯びるものではないでしょうか。私たちは武雄こども園の子どもたちが持つ、その子だけの大切な種にとっての土壌となり、柔らかく包み続けられたら、とても幸せです。

もう、だいじょうぶ。
あなただけのつばさで、ちゃんととんでいけるよ。
ここでみつけた、あったかいせんせいのては、おおきくなってもずっとそばにいるよ。
あんしんして、あなただけのたねをおまもりにして、たくさんのいろにあふれた、すてきなせかいに、いってらっしゃい。